

穂いもち病対策のため 一斉航空防除実施



行政報告をする小畑市長

市議会9月定例会行政報告

市議会九月定例会が招集された九月八日、小畑市長が行政報告をしました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。

なお、今定例会で審議された案件等については、十月一日号でお知らせします。

異常気象と農作物の 生育状況について

今年は、連日のように低温、日照不足が続き、異常な事態となりました。

この異常気象により、農作物へ影響が顕著に現れ、野菜などは、病害虫の発生による出荷量の不足(一部は降ヒョウが原因)が価格の高騰をもたらし、生産、消費両面にわたる経済的打撃が深刻化しています。

水稲は、冷害となった昭和五十六年に天候や稲の生育相が大変似ており、管内の「水稲生育定点調査圃」で七月五日に行った調査では、平年比で「あきたこまち」九〇%、「キヨニシキ」七五%、全体平均八五・七%と低く、茎数不足からの穂数不足による減収が早くから心配されていました。

このため農業総合指導センターを中心に、機関紙「あぜみち便り」や、「稲作異常気象対策特集号」などで、広報指導活動に万全を期し、気象の推移に応じた栽培管理の周知徹底を図ってきました。しかし、七月下旬には葉いもち病が激発し、二十八日、二十九日の大雨の後には、稲体がいもち病原菌に侵され萎縮し、枯死していく「ズリ込み症状」が一部地域に発生し、低温、日照不足、多雨のための、生育遅れに伴う出穂の遅れと重なり、穂いもち病への移行が特に懸念されました。

冷害といもち病による深刻な被害が予測されたため、早期一

斉防除を全域に実施するよう、各防除組織や個々の農家へ周知徹底し巡回指導してきましたが、期待された成果は得られず、八月二十日、県農政部から「穂いもち病激発予想に関する警報」が発令されました。このため、急きょ「いもち病対策特別航空防除実施計画」を立案し、八月二十九日、三十日の二日間、市内全域を対象に、ヘリコプターによる一斉航空防除を実施しました。

八月二十七日発表された五年産米水稲の作柄概況によると、今年の作況指数は九四の不良で、昭和三十四年以降最低で、今後の天候次第では、更に作況指数が低下する可能性が高いとのことでした。

いもち病や不稔障害など、まだまだ予断を許さず、今後とも適切な管理に努め、減収を最小限に抑えられるよう、関係機関と協力しながら徹底した指導に努めていきます。本市は、山間部を中心に生育遅延が著しく、完全登熟が極めて厳しい状況で、穎花の退化や白稈の発生、障害不稔が随所で見られるなど、被害の拡大が懸念されることから、市としては、栽培管理の指導と冷害の実態把握に努め、救済の諸施策について関係機関に働きかけるなど、迅速に対応するため、準備を進めていきます。

市長 リポート



No. 52

不安のない老後の基盤づくり

敬老の日おめでとうございませう。市民を代表して心よりお祝い申し上げます。

今、大館市も含めて日本全体が高齢化社会に向かっており、これに対応できる社会づくりが必要になってきています。

市は、厚生省の「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」の指定を受け、市民が健康で生きがいを持ち、安心して暮らせるまちづくりを実現するための基本計画を策定しました。

高齢者福祉のため、デイサービスセンターや在宅介護支援センターなどの施設を各地域に整備し、これらを中心に、子供からお年寄りまでが交流でき、社会参加活動できるコミュニティセンター的な施設を整備していきたいと考えています。

老人福祉総合エリアの建設候補地が決定したこともあり、県北の福祉の中心都市として、これらの実現に向け一生懸命がんばっていききたいと思っています。

小畑 元